



痛い病気・痛くない病気

副院長・総合診療科 荻澤 融司

病気には痛い病気と痛くない病気があります。痛みなどはっきりとした症状がある場合は多くの方が早期に病院を受診して診断と治療を積極的に受けられますが、痛くない病気は、例えば健康診断で異常を指摘されても医療機関を受診することがおっくうで治療の開始が遅れ大事になることがあります。そこで皆様の健康管理の参考にしていただければと考え、総合診療科で診察する機会の多い「痛い病気・痛くない病気」をまとめてみました。

① 痛い病気・症状のある病気

① 頭部の病気

脳出血・脳梗塞・片頭痛が痛みや症状のある病気の代表です。脳出血・脳梗塞は意識障害・頭痛・手足の麻痺などのはっきりとした症状を示すことが多いのですが、慢性硬膜下血腫といって頭部打撲などで頭蓋内の硬膜という膜の下に血腫を作る病気は受傷からしばらく時間が経過して症状を示してきます。この場合は頭痛を訴える場合と、なんとなくボーとしているといった漠然とした症状であることもあり注意が必要です。片頭痛はずきずきと耐え難い痛みを感じるものの CT や MRI で頭蓋内を検査しても異常は認めません。片頭痛に有効な薬がありますので内服薬を服用していただきます。一過性脳虚血発作は脳に流れる血液が一時的に途絶えることによって意識がなくなる病気のことです。頭痛などの痛みはありませんが突然意識がなくなるので覚えておくべき病気です。



② 胸部の病気

胸部の痛みでまず考えなければならない病気は狭心症や心筋梗塞といった心臓の筋肉への血液の流れが不十分になって生じる病気で虚血性心疾患といえます。命にかかわる場合が多いので大至急に診断して適切な対応をしなければなりません。大動脈癒で血管の壁が破れかけると胸痛、背部痛や肩の痛みを訴えることがあります。消化器疾患なのに胸の痛みを示す病気として胃食道逆流症があります。胃から胸の中の食道に胃の内容物が逆もどりすることで胸の奥が痛くなる病気です。強い酸性の胃液が中性の食道内に逆流して炎症や潰瘍などを作り痛みが生じます。逆流がのど元まで達すれば酸っぱい胃液をのどもとで感じたり、胃液の逆流でむせたり咳が出たりすることもあります。また胸部の皮膚に帯状疱疹という湿疹ができると強い痛みを感じます。痛みの部位の皮膚に水泡を伴うたくさんの赤いぶつぶつが出ます。



③ 腹部の病気

腹部には胃・十二指腸・小腸・大腸の消化管と肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓の臓器があります。また泌尿器系では腎臓・膀胱。男性では前立腺と睪丸、女性では子宮と卵巣があります。それぞれの臓器で痛みや症状を示す病気があります。胃・十二指腸は炎症や潰瘍で痛みが出ます。胃がんも深い潰瘍があれば痛みを伴いますが隆起型では痛みがない場合もあります。小腸は痛みや症状を出すような病気は少なく、開腹手術を受けたことがある方の癒着性腸閉塞が痛みを生じる代表的な病気です。大腸は癌などのしこりが大きくなり通過障害をきたすと痛みが出てきますが、いくら癌があるといっても直ちに痛みが出る訳ではありません。痛くないから癌ではないということはありませんので注意してください。大腸がんの初期症状は便の潜血反



(次頁につづく)